

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立菟道高等学校 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	菟道高等学校 (ソフトボール部6名、卓球部20名、サッカー部13名) 宇治支援学校 (卓球部13名、球技部6名) *下記5③のソフトボール交流は以下の学校を含む 北嵯峨高校8名、京都八幡高校2名、八幡支援学校11名、 聾学校4名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① その他 (他校との部活動交流)
4 目標 (ねらい)	支援学校をはじめ他校と部活動交流をすることで、スポーツを通して自己肯定感を高めるとともに、自他尊重の態度を育成する。また、共生社会における生涯スポーツへの意識を高める。
5 取組内容	年間3回、他校との部活動交流を実施した。 ①7月27日(火) 9:00~12:00 府立学校交流ソフトボール大会(場所:山城総合運動公園) 菟道高校、北嵯峨高校、京都八幡高校、宇治支援学校、八幡支援学校、聾学校の6校で混合チームを編成し、合同練習や交流試合を行った。 ②11月23日(火・祝日) 9:00~12:00 卓球部との交流(場所:宇治支援学校) 合同練習や交流試合を実施した。 ③12月12日(日) 9:00~12:00 サッカー部との交流(場所:宇治支援学校) 合同練習や交流試合を実施した。
6 主な成果	同年代の生徒とスポーツを通して、お互いを知り、相手の良さや頑張りを理解するなど、相互理解や相手を尊重する態度を身につける貴重な体験となった。 参加した生徒の感想文からも「このような経験は初めてで、最初は意思疎通を図るのが難しかったけれど、一緒に体を動かしたり、サッカーをしていく内に、コミュニケーションを取れるようになり、改めてスポーツの素晴らしさを実感することができました」とあり、共生社会での他者理解は、ただ頭の中で「多様性を認めるのは大切だ」と理解するだけでは不十分で、実際に体験することで初めて「自

	分事」になることから、こうしたスポーツ交流の意義は大きいと考える。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	お互いの学校の生徒の特性を理解した上で、交流試合ではお互いが参加しやすいように、ルールを簡素化したり、特別ルールを設定したり、試合時間を短縮したりと工夫を凝らした。
8 主な課題等	一つ一つの事業は参加した生徒にとっては貴重な体験となり将来に生かされるものがあるが、その経験が1回だけになるので継続性の面ではやや課題は残る。年間を通して、同じクラブが継続的に交流ができれば更によいが、各部活動の公式戦などの日程を考えると実際は難しいと考える。
9 来年度以降 の実施予定	宇治支援学校とは来年度以降も同様の交流ができるかを相談していく予定である。数年間に渡って交流してきた成果を生かしつつ、お互いにとって、より良い学びができるように更に取組をすすめていきたいと考えている。